

# ふなから

第35号

2023年9月30日発行  
編集・発行 上村直樹  
〒278-8510  
千葉県野田市山崎2641  
東京理科大学薬学部内  
印刷・菅原印刷(株)



2025年薬学部が移転する葛飾キャンパス新棟完成イメージ

## CONTENTS

1. 同窓会会長挨拶 (上村 直樹) .....	2	11. 新任の挨拶 (上林 敦) .....	14
2. 校友会理窓会会長挨拶 (増淵 忠行) .....	3	(草森 浩輔) .....	14
3. 学部長挨拶 (宮崎 智) .....	4	12. 卒業生報告 近況報告 (永田 将司) .....	15
4. 学科主任挨拶 (羽田 紀康) .....	5	(磯道 恵) .....	16
(秋本 和憲) .....	5	13. トピック	
5. 令和6年度同窓会総会案内 .....	6	研究室紹介 有機化学研究室 (和田 猛) .....	17
6. 令和5年度同窓会総会のご報告 .....	7	恩師からのたより (海保 房夫) .....	19
7. 令和5年度同窓会 特別講演会のご報告 .....	9	14. 生涯学習プログラム 2023年度後期講座のご案内 .....	21
8. 同窓会だより		15. 同窓会事務局からのお知らせ .....	22
第1期同期会報告 .....	10	16. 定例会に参加しませんか! .....	22
第16期同期会報告 .....	10	17. 登録情報の変更方法 .....	23
第18期同期会報告 .....	11	18. 会費・寄付金納入者一覧 .....	23
第19期同期会報告 .....	11	19. 終身会員一覧 .....	23
第26期同期会報告 .....	12	20. 訃報 .....	27
9. 叙勲・表彰者 .....	12	21. 編集後記 .....	28
10. 退任の挨拶 (堀口 逸子) .....	13	22. 同窓会幹事一覧 .....	28
(根岸 健一) .....	13		

# 同窓会会長挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 会長 上村 直樹 (23期)



皆様、こんにちは。私は東京理科大学薬学部同窓会の会長を務めております上村直樹です。まずは、この同窓会誌「ふなかわら」を開いていただきました皆様に、ご挨拶させていただきますことに心より感謝申し上げます。

同窓会という組織は二つの柱が必ず必要と考えています。一つは同窓会誌です。1987年に薬学部同窓会を発足以来、年一回の「ふなかわら」の発行を絶やすことなく続けてまいりました。今回で35号となります。現在の薬学部の状況だけでなく、在学当時の薬学部の状況が少しでも伝えることができればとの思いから、恩師からの便りや同期会報告などを掲載しております。コロナ禍で実施してこなかった同期会も、今年からは復活しているようで大変嬉しく思います。

もう一つは名簿です。個人情報保護の観点から冊子→CD-ROM→WEBと変化して参りましたが、重要な柱です。名簿は同期だけではなく、先輩や後輩との繋がりを見せてくれます。しかし名簿は更新された最新の情報でないと意味を成しません。是非ともホームページからアクセスしていただき、ご自身の情報を更新していただければと思います。

私たちの薬学部は、多くの優秀な専門家やリーダーを輩出してきた伝統と誇りに満ちた学部です。総会や定例会は、卒業生同士の絆を保ち、人脈の拡大、知識の共有という縦横の繋がりが、仕事では絶対に味わえない醍醐味をもたらしてくれます。そして同窓会は薬学部の発展を支える重要な組織でもあります。今年も、キャリア教育としての就職懇話会や実践社会薬学に講師を派遣して様々な機会を提供してまいりました。今後も薬学部の発展に貢献して参ります。さらに薬学部だけでなく東京理科大学全体への貢献も欠かせません。そのためには大学全体の同窓会である校友会理窓会との連携が重要になり

ます。増測忠行理窓会会長の寛大なるご配慮により、当会から理窓会役員3名、5名の副会長全員が理窓会の代議員を拝命しました。これからは薬学部だけではなく大学全体を視野に入れて活動することになります。特に理系大学の特徴として女性の比率が低いいため、薬学部同窓会としてはダイバーシティ推進のために貢献できるのではないのでしょうか。また理窓会は47都道府県に支部があります。ご自身のお住まいの支部の門を叩いてもらえませんか。各支部は薬学部以外の同窓がほとんどだと思いますが、それが逆にチャンスなのです。違う分野へ視野を広げることは、自分自身の可能性が広がることになるからです。さらに各支部も薬学部同窓を必要としているからです。学部は違っても同じ大学の同窓だからできるコミュニケーションがあり、新たな自分を見つけることができます。どうか理窓会へのご参加もご検討ください。理窓会本部や各支部の情報はホームページ (<https://tus-alumni.risoukai.tus.ac.jp/>) に掲載しています。

薬学部同窓会のホームページ (<https://ridaiyakudo.gr.jp/>) も、情報発信や交流の場として重要な役割を果たしています。皆様のご協力により、ホームページはより充実した情報を提供し、同窓会メンバーの皆様にとって有益なツールとなっております。定例会等の案内をしておりますので、ご覧下さい。定例会は神楽坂で開催しておりますが、コロナによる唯一のメリットであるオンラインでの参加もできるようになりました。首都圏以外の方も同期の同窓をお誘い合わせの上、顔を出してください。

最後に、私たちは東京理科大学薬学部同窓会として、絆を保ち、長く活動を続けてまいります。皆様からのご意見やご要望にも真剣に対応し、薬学部の発展に向けて活動して参りますので、ご協力をよろしく願います。



# 校友会理窓会会長挨拶

## 薬学部「ふなかわら」35号に寄せて

校友会理窓会会長 増淵 忠行



今年も執筆依頼がございましたので、思いつくままペンを取らせていただきました。しばしお付き合いください。

### 理窓会の2022年度を振り返り

昨年6月の理窓会代議員総会で、武田直子（16期）さんからの「代議員総会の議長は会長でなく代議員が担うことと、本部役員の代議員兼務を再考されてはいかがでしょうか」との提案をいただきました。そこで、「会則等改正検討諮問委員会」を立ち上げ、理窓会副会長上村直樹（23期）さんを中心に検討を重ね、本年3月、書面審議による臨時代議員総会を開催し、理窓会会則の改正を付議しました。

主な改正点は、会の名称を「東京理科大学校友会理窓会」と改めること。代議員総会の議長を代議員から選ぶこと。本部役員は代議員を兼任しないことなど54項目、全て承認されました。

今年（2023年度）の代議員総会では、女性初の司会者として野村香織（34期）さんに明るく、品格ある司会をしていただきました。議長は山下秀雄福井支部長にお願いし見事な議事運営をしていただきました。更に、高尾圭一（45期）さんには理窓会本部のホームページ改革を、田畑新（16期）さんには英国理窓会の立ち上げなどにアドバイスをいただいております。ありがとうございます。

### 「ふなかわら」創刊号など、歴史を拝読

上村直樹会長さんから「ふなかわら」の創刊号から4号までのデジタル版が送られてきたので拝見しました。創刊号の中に「薬学部同窓会と理窓会との関係は？」の質問があり、「現地点では別である」と回答されていました。第4号では、新宿区市ヶ谷船河原町から野田への移転計画や、副会長に石井甲一さん、上村直樹さんの名前が目に留まりました。それに女性役員がたくさんおられるのは薬学部ならではのことですね。

### 薬学部同窓会 総会後の講演会で

#### アンサンブ シンデレラ

昨年（2021.7.23）開催された薬学部同窓会にお招きいただいた時、特別講演で、アンサンブ シンデレラの医療原案作成者、富野浩充さんの講演を拝聴しました。演題は「アンサンブシンデレラが出来るまで～門外不出でお願いします～」で、大変興味深く楽しく聞かせていただきました。そして薬剤師用語集を購入し、時々拝見し「そうなんだ！なるほど！」などうなずきながら読んでいます。



そして今年（2023.7.22開催）の特別講演講師は、「心



も体もどどろろ漢方の暮らし365日」の著者、川手鮎子（2期）先生でした。片岡幸世（26期）さんとの対談形式で、解りやすく、見事な講演会でした。私のかかりつけ医（北里大学医学部卒）が漢方薬を処方してくださっています。川手先生の著書を購入し、勉強してみます。

### お願い 理窓会支部行事などにご参加ください。

新型コロナ（前述の薬剤師用語集の中に）を「いつまで新型と呼ぶのか」と書かれていますが、この5月から5類相当になり、理窓会の支部総会などが復活しています。6月25日に開催した全国支部長会では「女性、若手の支部活動参加」について意見交換をしましたが、薬学部卒の皆さんの参加を増やしていただき、新たなエネルギー、パワーを導入してください。シンガポール理窓会の尾崎会長さんも薬学部卒で、フレッシュな活動をしてくださっています。一人でも多くのご参加をお願いします。

以上

# 学部長挨拶

## ～一難去って…、2023年度の概況～

薬学部長 宮崎 智



学部長となり、5年目となりました、宮崎です。本稿では、4回目となる機会をいただき、ありがとうございます。昨年度の本誌で触れましたが、2023年度は、薬学評価機構による審査、2024年度4月から施行される令和4年度コアカリキュラムの実装に向けた、本学カリキュラムの改良、葛飾移転準備という3つの大きな事項が進行しています。本稿では、それら3つのイベントの状況を中心に、薬学部の現況を紹介させていただきます。

1つ目は、薬学評価機構による審査についてです。3月8日締め切りでしたので、報告書をまとめ提出していましたが、7月25日に第1回の回答がありました。115項目の質問事項等があり、これに対する本学としての返答を作成し、8月10日に再提出したところです。「出る杭は打たれる」というところでしょうか（笑）。今後、10月末に審査委員の訪問を受け、2日にわたる現地調査に対応する予定です。7年前の評価と異なり、今回は、入学、カリキュラム、卒業の各ポリシーとの整合性や自己点検としてのPDCAサイクルの状況や教員組織の実情などにウェイトを置いた評価となっています。今回は、薬学コアカリキュラムに基づく本学の必修科目の実態に評価の中心でした。現在は、10月末の対面調査に向けた学内での情報共有を行っているところです。

2つ目は、全国的に次年度から施行される薬学コアカリキュラムです。今回は、医学、歯学、薬学で共通のプロフェッショナルリズムと称する「医療人に求められる資質」が定義されました（図1）。また、すべての開講科目は、実務実習を含む「臨床薬学」へ向かうものとされ、基礎薬学の科目も薬の利用を念頭においた講義となるように留意することになります（図2）。傾向としては、薬剤師国家試験との整合性もありますが、薬学科のカリキュラムは、医療人教育へ大きくシフトせざるを得ません。しかし、本学の特徴は、あくまで研究力にありますので、卒業研究の単位数を現行の6単位から30単位に増

やし（学長室で6年制が修士相当に値するというをお認めいただいた結果を勘案した提案）、必修科目の24単位削減（選択科目への移行を推奨）して、研究力のある医療人の育成を志向するようカリキュラム検討委員会、教務委員会を中心に議論をいただいています。本学に4年制学科があることは、6年制学科を補完して、薬学生に求められる基礎科学を強化できる、大きな強みであると思います。

最後に、葛飾キャンパスに向けての進捗状況をお知らせしておきます。8月現在ですが、理事長に伺ったところでは、「特に、着工工事に遅れが生じているという報告は受けていない。」という回答を得ています。隣接している葛飾キャンパスの研究棟からは、地下部分の工事が終わろうとしている段階といった印象ですが、これからニョキニョキと新棟が現れることと期待しています。引越し準備は、各研究室や共通機器室、実習室の設計と備品についての打ち合わせは、おおよそ終了しつつあります。一方、前節で述べた改訂コアカリキュラムが葛飾キャンパスでも確実に実行できるように、他学部の状況を合わせた講義・ゼミ室割り当てのシミュレーションを開始しています。薬学部で現在開校されている科目については、大学院のものも含めて開講できるよう。実習については、開講時期の変更等を含めて再編していただいたので、かなりの変更が必要でしたが、教職員の協力により、現状の実習時間を確保しつつ運用できる見込みです。また、実務実習でお世話になりそうな葛飾区や江戸川区の薬局の訪問も始めていただいています。やはり、地域や社会との接点を多く持ち、より多くのご意見を戴くことが重要と考えています。同窓生の方々におかれましては、社会ニーズの教授や現役学生へのキャリア学習で、大学との関わりを維持いただければと思います。次世代の理科大もリードください。ご助言やご相談をお待ちしております。

皆様方の益々のご活躍を祈念して、本稿の結びと致します。

A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力	
1. プロフェッショナリズム	豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識と、薬剤師としての人の健康の維持・増進に貢献する使命感と責任感。患者・生活者の権利を尊重して利益を守る倫理観を持ち、医薬品等による健康被害（誤薬、医師事故、重篤な副作用等）を発生させることのないよう最善の努力を重ね、利他的な態度で生活と命を最優先する医療・福祉・公衆衛生を実現する。
2. 総合的に患者・生活者を見る姿勢	患者・生活者の身体的、心理的、社会的背景などを把握し、全人的、総合的に捉えて、個の深い医療・福祉・公衆衛生を実現する。
3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	医療・福祉・公衆衛生を担う薬剤師として、自己並びに患者と共に研鑽し教えあひながら、自ら到達すべき目標を定め、生涯に渡って学び続ける。
4. 科学的探究	薬学的視点から、医療・福祉・公衆衛生における課題を的確に見出し、その解決に向けた科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動を適切に計画・実践し薬学の発展に貢献する。
5. 専門知識に基づいた問題解決能力	医薬品や他の化学物質の生命や環境への影響を専門的な観点で把握し、適切な科学的判断ができるように、薬学的知識と技能を習得し、これらを多様な高次元な医療・福祉・公衆衛生に向けて応用する。
6. 情報・科学技術を活かす能力	社会における高度先端技術に関心を持ち、薬剤師としての専門性を活かす。情報・科学技術に関する倫理・法律・制度・規範を遵守して疫学、人工知能やビッグデータ等に係る技術を積極的に活用する。
7. 薬物治療の実践的能力	薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者本位の処方箋等の薬学管理を実現する。
8. コミュニケーション能力	患者・生活者、医療者と共に感得で良好なコミュニケーションをとり、的確で円滑な情報の共有、交換を通してその意思決定を支援する。
9. 多職種連携能力	多職種連携を構成する全ての人々の役割を理解し、お互いに対等な関係性を築きながら、患者・生活者中心の個の深い医療・福祉・公衆衛生を実現する。
10. 社会における医療の役割の理解	地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、未来・予防、治療、事後管理・救急対応までの個の深い医療・福祉・公衆衛生を担う。

図1 令和4年度改訂コアカリで示された資質

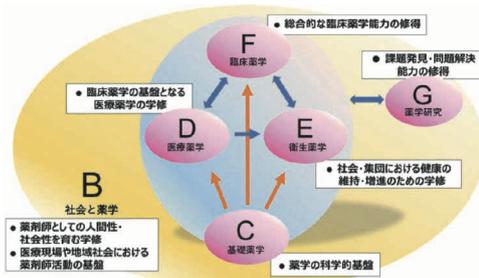


図2 改訂コアカリでの各領域の関わり

令和5年度薬学教育指導者のためのワークショップ資料より

## 学科主任挨拶



薬学科主任 羽田 紀康

令和4年10月より、2期目となる薬学科主任を拝命致しました羽田紀康と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。新型コロナウイルス感染の猛威から3年以上たち、大学生活もコロナ前の雰囲気に戻りつつあります。講義は2020年の各教員作製の動画による非同期型(オンデマンド)配信からハイフレックス(対面と同時配信)に移行し、ようやく対面中心に戻ってきております。その間、学内外の会議の多くがzoom併用となり、キャンパスが複数ある大学の移動、教科書の編集委員会、学会の諸委員会など会場に集まらなくても会議開催に大きな支障は無く、移動時間の削減につながる良い道具も得、会議のあり方の見直しにつながりました。さて、薬学部は本年秋に薬学教育評価機構による2回目の第三者評価を受けることになり、この4月にパイプファイル66冊(段ボール12個分)を機構に送付致しました。秋には担当者が直接来校し、薬学部(特に薬学科)が評価されます。また、来年4月からは新モデルコアカリキュラム(令和4年度改訂版)が施行され、カリキュラムの改訂、見直

しに忙しくなり、更にその1年後は野田キャンパスからの葛飾キャンパス移転と大きなイベントが目白押しです。教職員一丸となって乗り越えていきます。このような薬学部の現状と近未来の予定ですが、長期的な視点で捉えますと、いささか心配事もあります。次世代の教員確保と育成問題です。若手教員の育成について本学部は切実な悩みがあります。任期制の嘱託助教のなり手不足です。先の見えない任期制の助教に着任する絶対数が少なく、公募しても応募者が非常に少ないのが現状です。特に医療系、臨床系の実務家教員を必要としても病院や薬局から応募しようという志を持つ者は皆無です。今後ほとんどの大学では実務家教員は自学出身者で現場の薬剤師経験を元に着任することが予想されます。本学も諸先輩方のお力をお借りしたく切に望みます。

最後になりますが、本学薬学部同窓生の皆様のご健勝と益々の発展をお祈りすると共に、引き続きご指導ご鞭撻のほどお願ひ申し上げます。

## 学科主任挨拶



生命創薬科学科主任 秋本 和憲

2022年10月より、生命創薬科学科主任を拝命致しました秋本和憲(本学薬学部薬学科28期卒)です。宜しくお願ひ致します。新型コロナウイルス感染拡大から3年以上がたち、大学生活も落ち着きを取り戻してきました。この間の大きな日常の変化のうちコロナ感染前に戻りつつある様々な事柄と、もう後戻りしない様々な事柄を実感するにつれ、歴史的な大きな変動の時代に身を置いているのだと改めて考えさせられております。

本学薬学部も2024年度から導入される新モデルコアカリキュラム対応での現行カリキュラムの改編、2025年度の野田キャンパスから都内の葛飾キャンパスへの移転と短い間に大きく変化します。新モデルコアカリキュラムで新しくなることの一つは情報科学(データサイエンス)の導入です。本学薬学部が伝統的に充実している統計学・医療統計学に加えて、新しいデータサイエンス分野

であるAIや数理モデル等の導入が図られます。生命創薬科学科でも2023年度から新たにデータサイエンス教員に加わって頂き、学部・大学院のデータサイエンス科目も導入しました。葛飾移転についても準備が進んでおります。このように本学薬学部の伝統を大事にしつつ、時代の流れを取り入れてさらなる発展を目指します。移転後には皆様方に大きく変貌した新生薬学部・生命創薬科学科の姿をご披露できるように教職員一丸となって教育研究を進めて参ります。また、生命創薬科学科のモットーである「高度な知識と技能を備え、世界をリードできる薬学(創薬)研究者の養成」にも引き続き邁進します。

最後になりますが、本学薬学部同窓の皆様方のご健勝と益々のご発展を祈念すると共に、引き続きのご指導ご鞭撻を宜しくお願ひ致します。

# 令和6(2024)年度東京理科大学薬学部同窓会総会 および講演会のご案内

皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、来年度の同窓会総会および講演会を下記にて開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

令和5(2023)年10月

東京理科大学薬学部同窓会  
会長 上村 直樹

■日 時：令和6(2024)年7月20日(土) 14:00～

■場 所：インテリジェントロビー・ルコ(軽子坂MNビル)

東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F 電話：03-3266-9311

(同窓会総会、講演会および懇親会のすべてを上記会場で開催致します)

●総会および講演会は、対面とオンラインのハイブリッド形式で行います。

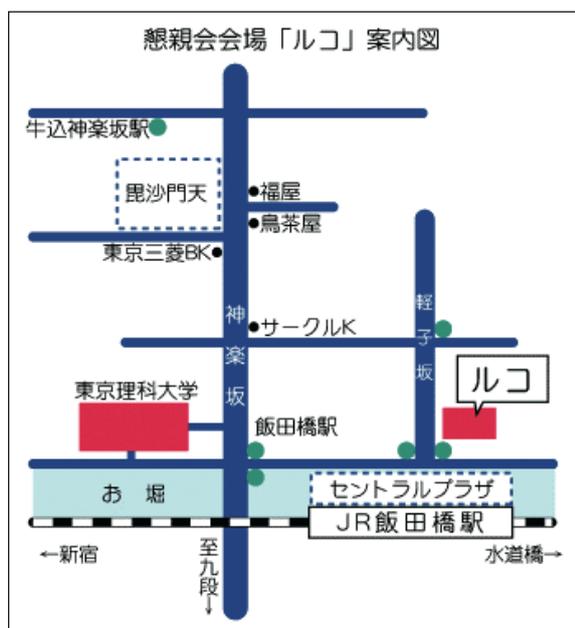
■次 第：14:00～15:00 同窓会総会

15:00～17:00 特別講演会

●講演の内容につきましては、随時ホームページに掲載いたします。また、研修機関認定制度が変わり、研修シールのお渡しが出来なくなりました。ご了承ください。

17:00～18:45 懇親会

■会 費：懇親会 5,500円(予定)



【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

【お問合せ】

東京理科大学薬学部同窓会 事務局

278-8510 千葉県野田市山崎2641

東京理科大学薬学部内

E-mail: [jimu@ridaiyakudo.gr.jp](mailto:jimu@ridaiyakudo.gr.jp)

FAX : 04-7121-4531

\*お電話での受付はしておりません。また、事務員は常駐しておりませんので、すぐには対応できない場合がございます。

【担当】27期幹事

薬：稲村伸二、久米千恵(旧姓：白須)、  
小川順子(旧姓：伊藤)

\*当日は27期同期会も開催します。詳細はこれから検討&ご連絡しますので奮ってご参加ください。

# 令和5（2023）年度同窓会通常総会報告

令和5（2023）年7月22日（土）の午後、インテリジェントロビー・ルコにおいて、令和5（2023）年度通常総会が開催されました。出席者は41名でした。総会担当は第26期生が務め、司会の小林寧氏の開会宣言、上村直樹会長の挨拶があり、次いで、野村香織氏（34期）が議長に、高尾圭一氏（45期）、高橋悠一氏（52期）が議事録署名人に指名され、事務局の小林さと子氏が議事録作成を担当し、議題に従って議事が進行されました。

主な議題は次の通りで、いずれの議題も原案の通り承認されました。

第一号議案 令和4（2022）年度事業報告の件  
 第二号議案 令和4（2022）年度決算報告及び監査報告の件  
 第三号議案 令和5（2023）年度事業計画案の件  
 第四号議案 令和5（2023）年度予算案の件

以上の議案審議終了後、小林寧氏により閉会宣言がなされました。

26期 担当幹事

## 第一号議案

令和4（2022）年度事業報告

### 1. 同窓会通常総会の開催

令和4（2022）年7月23日  
 インテリジェントロビー・ルコ

#### 特別講演会

「アンサンングシンデレラが出来るまで  
 ～門外不出でお願いします～」

講演者：アンサンングシンデレラ

医療原案作成者 富野 浩充 先生（37期）

懇親会 → 新型コロナウイルス対応により開催を中止、有志の会へ変更

### 2. 同窓会会報「ふなかわら」第34号の発行

令和4（2022）年9月30日

### 3. 地区交流会の開催 令和4（2022）年10月9日 第55回日本薬剤師会学術大会（仙台）に合わせて、交流会開催

→ 新型コロナウイルス対応により、開催中止

### 4. 新会員勧誘 資料を272名に送付

令和5（2023）年1月31日

会費納入は、令和5（2023）年3月卒業生（60期）24名、大学院修了者 4名

### 5. 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品（記念スパーテル）を贈呈 令和4（2022）年9月、令和5（2023）年3月19日

### 6. 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈

→ 新型コロナウイルスの影響により謝恩会開催中止のため、祝い金10万円の贈呈はなし

### 7. 同期会開催（1、16、25期）

同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈（1、16、25期）

### 8. ホームページのメンテナンス

### 9. WEB名簿システムのメンテナンス

### 10. 定例会の開催（ハイブリッド開催）

令和4（2022）年5月7日、令和4（2022）年7月23日

令和4（2022）年10月15日、令和5（2023）年1月21日

### 11. 正副会長会の開催（ハイブリッド開催）

令和4（2022）年5月29日

### 12. 大学関連

・医療薬学教育研究支援センターへの協力

・就職懇話会（キャリア学習C）への協力

（令和4（2022）年7月9日）

・実践社会薬学への協力

### 13. 理窓会関連

・理窓会ホームカミングデーへの協力

（令和4（2022）年10月30日）

→ 新型コロナウイルスの影響により、オンラインで開催

・理窓会関連団体交流会（第10回）への参加

（令和5（2023）年3月18日）

→ 新型コロナウイルスの影響により、オンラインで開催

【参考】 当会からの理窓会役員および代議員は以下の通り

副会長 上村直樹  
 常務委員 野村香織、高尾圭一  
 代議員 武田直子、田畑新、磯部総一郎、伊集院一成、真野泰成

## 第二号議案

### 令和4年度会計報告

東京理科大学薬学部同窓会  
 令和4年4月1日～令和5年3月31日

収入の部		支出の部		
内訳	金額	内訳	金額	摘要
同窓会費	2,159,000	人件費	604,200	アルバイト代
預金利息(合計)	139	通信費	13,268	さくらインターネット
		諸案内状印刷送費	1,806,673	ふなかわら印刷発送(菅原印刷)
		郵便代・宅配代	29,267	郵便代・宅配代
寄付金	204,718	文具・事務経費	22,825	振込料 1,650円、その他 21,175円
		プリンター経費	79,800	実務薬学研究室
		事務局パソコン経費	141,280	パソコン、ソフトウェア
総会懇親会参加費	130,000	総会講演会謝金	50,000	講師御礼
地区交流会懇親会参加費	0	総会経費	74,388	会場費・機器使用料
		総会懇親会費	168,300	
理窓会より総会祝い金	10,000	地区交流会懇親会費	0	
		定例会会議室使用料	3,500	2回分(10/15、1/21)
		定例会懇親会費 補助	23,338	2回分(10/15、1/21)
資産より繰り入れ	1,039,041	同窓会パンフレット作成、送付	132,890	
		卒業謝恩会祝金	0	新型コロナウイルスの影響で謝恩会中止のため
		卒業記念品代	188,100	記念スパーテル270本
		交際費	63,868	事務課他 お中元・お歳暮等
		同期会協賛金	90,000	3期分(1期、16期、25期)
		ホームページ維持費	132,000	エスト社
		名簿システム維持費・新規登録料	33,000	アジル社
		理窓会関連団体交流会懇親会費	0	新型コロナウイルスの影響でWEB開催のため
		理窓会ホームカミングデー	0	
		雑誌広告	6,000	理窓会会報2023年1月号
		就職懇話会謝金	0	
		学会等協賛金	0	
		雑費	80,000	送金2件(重積会費等)
合計	3,542,898	合計	3,542,898	

### 資産内訳

郵便局振替口座	839,092
定期預金(三菱UFJ銀行)	4,531,611
普通預金(三菱UFJ銀行)	2,402,480
普通預金(みずほ銀行)	354,343
ゆうちょ銀行	3,673,740
現金	438,751
	12,240,017

2023年6月17日

会計

牧田 美保



### 監査報告

会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。

2023年6月21日

会計監査

青山 陵夫



花岡 信子



第三号議案

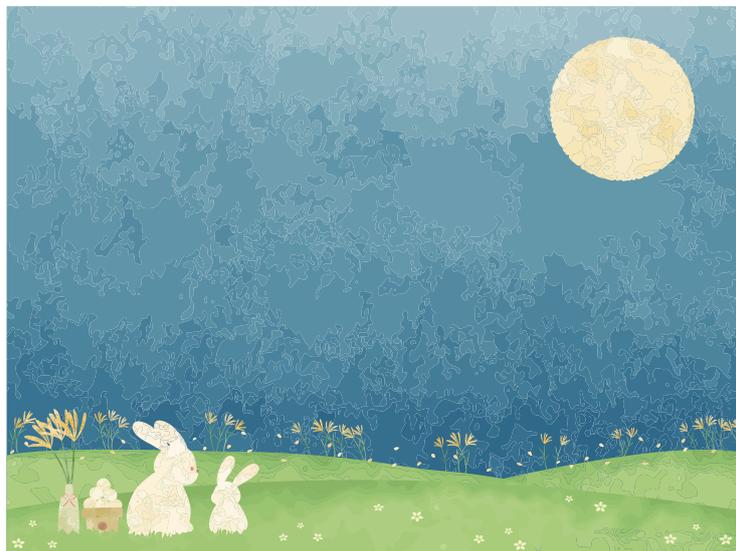
令和5（2023）年度事業計画案

1. 同窓会通常総会の開催 令和5（2023）年7月22日
2. 同窓会会報「ふなかわら」第35号の発行  
令和5（2023）年10月
3. 地区交流会の開催 令和5（2023）年9月17日  
第56回日本薬剤師会学術大会（和歌山）に合わせ  
て、交流会開催  
→ 学術大会がハイブリッド開催で現地参加者が  
少ないことが予想されているため、開催中止
4. 新会員勧誘 資料を送付  
令和6（2024）年1月～2月
5. 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品（記念ス  
パーター）を贈呈  
令和5（2023）年9月、令和6（2024）年3月
6. 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈  
令和6（2024）年3月
7. 同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈
8. ホームページのメンテナンス
9. Facebookの作成、メンテナンス
10. WEB名簿システムのメンテナンス
11. 定例会の開催（ハイブリッド開催）  
令和5（2023）年5月7日、令和5（2023）年7月23日  
令和5（2023）年10月、令和6（2024）年1月を予定
11. 正副会長会の開催（ハイブリッド開催）  
令和5（2023）年6月17日
12. 大学関連
  - ・医療薬学教育研究支援センターへの協力
  - ・就職懇話会（キャリア学習）への協力  
(令和5（2023）年7月1日)
  - ・実践社会薬学への協力
  - ・その他
13. 理窓会関連
  - ・理窓会ホームカミングデーへの協力  
(令和5（2023）年10月29日)
  - ・理窓会関連団体交流会（第11回）への参加  
(令和6（2024）年3月)
  - ・その他

第四号議案

令和5年度収支予算案  
東京理科大学薬学部同窓会  
令和5年4月1日～令和6年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	3,000,000	人件費(アルバイト代)	700,000
総会懇親会参加費	220,000	通信費(さくらインターネット、ウィルスバスター)	30,000
地区交流会懇親会参加費	0	印刷発送費(ふなかわら)	1,700,000
		郵便代(宅配代も含む)	50,000
寄付金など	50,000	文具・事務経費	50,000
預金利息	300	プリンター経費	79,800
		総会講演会謝金	50,000
資産より繰り入れ	878,105	総会経費	100,000
		総会懇親会費	220,000
		地区交流会懇親会費	0
		定例会会議室使用料	10,000
		定例会懇親会費 補助	50,000
		同窓会パンフレット作成、送付	150,000
		卒業謝恩会祝金	100,000
		卒業記念品代(記念スパーター)	200,000
		交際費(事務課他 お中元・お歳暮)	70,000
		同期会協賛金(5期分)	150,000
		ホームページ維持費	132,000
		WEB名簿システム関連費	50,000
		Facebook作成費	100,000
		理窓会関連団体交流会懇親会費	15,000
		理窓会ホームカミングデー	30,000
		同窓会旗	11,605
		雑誌広告	10,000
		就職懇話会謝金	10,000
		学会等協賛金	30,000
		予備費	50,000
<b>合計</b>	<b>4,148,405</b>	<b>合計</b>	<b>4,148,405</b>



# 令和5年度同窓会 特別講演会報告

令和5年7月22日（土）に行われた同窓会第二部特別講演は、2つの点でこれまでの講演会と趣が異なるものとなりました。一つ目は、インタビュー形式であったこと、二つ目は全員参加のクイズ大会があったことです。

講演のタイトルは、「漢方を活かしたやさしい暮らし」、演者は薬剤師、国際中医師などの資格を持ち、漢方薬局を45年経営されてきた川手鮎子さんです。川手さんは『心も体もととの漢方の暮らし365日』（自由国民社）の著者であり、本学薬学部第二期卒業生でもあります。

講演はインタビューアの「理科大薬学部で学ぶきっかけは何でしたか？」という質問から始まり、大学時代のびっしり組まれた授業や卓球部の部活動、卒業研究の思い出、卒業後に就職した製薬会社のことなど、聴衆の興味を引く話題が続きました。それらの質問一つ一つに、川手さんが丁寧に、時にはユーモアを交えて答えて下さり、聞き手側も自分たちの学生時代や就職して間もない頃の思い出を懐かしく重ねたり、時代や環境の違いに驚いたりしながら、熱心に耳を傾けました。講演のメインテーマである漢方に対するご自身の“こだわり”については、語り口こそ穏やかではありましたが、かなりの熱量で思いを語っていただきました。特に印象に残ったのは、「五臓六腑がワンチームとして働いている」という

フレーズです。西洋医学で言う臓器の役割とは異なり、漢方の五臓六腑は互いに助け合う「ワンチーム」だという考え方で、その理解に基づいて体を元に戻し、整えていく漢方を、川手さんは「とてもやさしい」と表現されていました。

後半のクイズ大会は、川手さんの著書『心も体もととの漢方の暮らし365日』から、クイズが出題されました。身近な漢方や生薬の知識を問う〇×形式で、「〇の人は右手、×の人は左手を挙げて」という司会者の声に、学生のように「ハイ！」と手を挙げる参加者の真剣な表情や、会場の楽しい雰囲気を紙面でお伝え出来ず残念です。クイズは全部で9問あり、全問正解者に賞品が出る予定だったのですが、5問目にして連続正解者がいなくなってしまい、4問目まで正解した5名の方に川手さんから著書が贈られました。最後に、後輩に向けてのメッセージをお聞きしたところ「薬剤師として、今の時代だからこそできることがある」と高い専門性を持つスペシャリストになる事と、心のケアやアドバイスといった、患者さんに寄り添う質の高い薬剤師になる事を挙げられました。薬剤師が誇りをもって、生き生きと働ける社会を後輩の私達に託され、講演は幕を閉じました。

（第26期幹事 片岡幸世（旧姓 木村））



1～25期、27期以降



総会担当幹事26期



## 第1期生同期会のご報告

同期会が2022年10月2日アルカディアで開催12:00~14:30、40名の参加がありました。昨年はコロナのため残念ながら見送りましたが、今年は私が最後の会合ということで皆さんに集まって頂きました。会に先立って残念ながら鬼籍に入られた30名の方々を思い起こして黙とうをしました。また連れ合いの方の看病のためや本人の足腰不調のため欠席された方も50名ほど、はがきの連絡がありました。

4卓の前に用意された弁当の前に遠方から出られた静岡県出身の方の乾杯から食事が始まり、近くに並んだ友人との会話が始まりました。

1時間ほどして集合写真を撮り、どうしても次回の同期会を継続したい

との希望が多く、次は微生物学教室出の土屋興二君に決まりました。予定どおり14:30に散会しました。世話人会でご協力頂いた方、宇野博之、石川キヨ、清岡夫妻、山口堅四郎、佐武紀子、澤田夫妻、中村啓子、桂珠喜の皆さんに感謝致します。

(黒崎記)



## 第16期同期会報告

第16期同期会は昨年11月5日ついに開催できた。新型コロナウイルスの影響で開催が2回延期となった。前回は2018年11月。「みんないつ死ぬか分からない年齢になったから4年ごとではなく、2年ごとに開催しよう」が短縮の理由。切実である！

開催場所は東京駅北口の日本工業倶楽部会館。石毛君と大谷佳子さんの司会で開始。前回以降に、残念ながらことだが、3名の方が亡くなられた。黙とうを捧げた。

お世話になった先生として海保先生（製剤学）にご出席頂いた。同期の田畑君と筆者は1993年頃企業駐在員としてオランダで生活しており、ちょうどそこへ海保先生がライデン大学にご研究のため留学され、お付き合いさせて頂いた。そのご縁もあり、参加を強くお願いし実現できた。先生にお会いでき皆とても嬉

しそうであった。

所属研究室ごとに順番に壇上にあがり、近況報告。定年を迎える65歳前後となったが、退職後も継続雇用となったり、日数を減らしながらも薬局勤務を続けたりと意気軒高である。

次回同期会の代表幹事は武田（服部）直子さん。2024年10月、11月頃の開催を予想する。同期メンバーが一人でも多く会に参加して下さることを願っている。

石川 弘



## 第18期同期会報告

2023年4月29日（土）に前回と同じ湯島のイタリアンレストラン「Bistro GRASSO」にて18期同期会を開催いたしました。

前は2019年11月23日、還暦過ぎたしこれからは毎年行おう、と決めたのにまさかのコロナ。3年半ぶりで定年を迎えた方も多かったこともあり、出席者は前回の35名から大幅増の60名。

前回同様ビュッフェスタイルでしたが椅子は50脚しかなく、ご不便をおかけしましたことをこの場でお詫び申し上げます。

今回はゲストで薬剤学研究室に所属していらした海保房夫先生を迎えることができ、大学時代の話に花が咲きました。そして近況などを語り、楽しい3時間を過ごすことができました。特に再就職、老後、孫の話が多かったようです。

来年2024年は4月28日に開催いたします。もう会場を予約してあります。

また、卒後13名の方が逝去されていきました。ここに、

謹んでご冥福をお祈りいたします。

皆さまと次回も元気で会えることを楽しみにしております。

文責 18期 大山邦之



## 第19期同期会報告

まず初めに、今回の同期会開催にあたり、企図されてから準備に手数を掛けられず、開催の連絡、お誘いの際に、一部、不手際や誤解を招いた点、該当された方にはお詫び申し上げます。これに懲りずにお付き合いください。

さて、報告です。今年度の同期会を、去る2023年5月21日（日）14時から、有楽町 東京国際フォーラム地下1階フロアの酒蔵レストラン 宝にて開催しました。この場所は都庁跡、府庁跡、土佐藩邸跡です。その縁からか、今春からの「らんまん」で話題の土佐、佐川の司牡丹を始め全国9蔵の地酒と地産素材の創作和食の美味しいお店です。

当日は、東京国際フォーラム内の最も大きな展示ホールにて「東京私立中学合同相談会」が開催中。来場されたご家族の入場列などでほぼ通路は満杯。コロナ禍明けのお出かけで教育パパ、ママ、お子様の熱気はすごく、その間を掻い潜る状況でした。地下フロアへの入り口から会場まで辿りつけない同期生やなぜか会場の逆方向へ進む同期生も。ほぼ全員が定年に近づいていることもあり、現職、前職、第二の人生、体調、趣味の変遷、等々、各々の席の周りで、お話が盛り上がりました。美味しいお酒、食事も楽しみ、ゆったりとした時間を久しぶりに

満喫。再会を約して中締め。その後は、2次会から合流される方と丸の内仲通りに面したプロントへ。またまた、よく話し、よく飲み、盛り上がりました。3次会はガード下へ。さらに旧交を温め、新交を進めました。

最終23名の皆さまの参加をいただきました。幹事一同、無事に同期会が開催でき安堵しています。また機会を持ちたいと考えております。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

19期 同期会開催幹事

小嶋、鈴木、高梨、住田、長谷川、小川（大島）、山内（阿部）



## 第26期同期会報告

連日35℃越えの猛暑が続く中、令和5年7月22日（土）東京は最高気温33.4℃と奇跡的（?）にも若干低めの気温でした。総会や講演会が行われた後、会場となった飯田橋のインテリジェントロビー・ルコより歩いて1～2分の「一品香」という中華料理店で、第26期同期会は開催されました。定員28名のお座敷に講演会より10名、同期会より25名参加の総勢35名の懐かしい顔が揃いました。薬学科はすでに何度かクラス会を開いておりましたが、製薬学科は卒業以来初めてとのこと。もちろん薬学、製薬学科合同開催は初めてです。

遠くは新幹線で大阪、名古屋、浜松から足を運び、日帰りされた方もいらっしゃいました。お孫さんが来年小学校に上がられる方、筋肉、マラソン、スキューバ、手芸、華道に夢中な方、お子さんも成人され、ご伴侶も単身赴任で一人暮らしを謳歌する方々と皆様実に様々に活躍されているようでした。

今回は、新型コロナが5類に移行してから初めての同期会で、対面で行うこと

ができました。医療関係者の多い私達が、このように集まることができましたのは、無上の喜びです。まだ感染への配慮が必要な方が大勢いらっしゃいますことを胸に、これからも人生百年時代を歩んで参りたいと思いました。

26期 山下京子（旧姓 田中）



薬学部同窓生の叙勲・褒賞受賞者です。

飯島康典 12期 旭日小授章 2021年春

石井甲一 11期 瑞宝小綬章 2022年秋

おめでとうございます

## 退任の挨拶



リスクコミュニケーション学 堀口 逸子

4年4か月の間、大変お世話になりました。どうもありがとうございました。在任期間の半分以上はコロナ禍で、野田キャンパスに伺えた日もとても僅かでした。放送大学でしかできていないリスクコミュニケーションの講義を年間通して開講してもらえ、理工学部の学生や大学院生とも交流することができました。着任した当初、テレビ会議システムを駆使して2つのキャンパスを結び、四苦八苦しながら大学院講義をしていたのを、とても昔のように思います。これもzoomでの講義が可能となり、あっという間に解決しました。卒業生とは保健所

職員対象の研修で出会うことが多く、優秀な卒業生を輩出している貴大学で教員をできたことを何より嬉しく思っています。

私は、歯学部卒業後、自治体やNPO職員、医学部教員、大学本部職員、また内閣府食品安全委員会委員（特別職公務員）と様々経験しました。貴学部での教員生活が私の人生経験に花を添え、これからの人生を考えるきっかけになりました。私が大学院で専攻した公衆衛生学もモデル・コア・カリキュラムに取り入れられるようになり、これからの薬学の益々の発展を期待しています。

## 退任の挨拶



実務薬学研究室 根岸 健一

2010年10月から本学に准教授として迎え入れていただきましたが、それまで他大学では講師だったこともあり、会議での議論などに加わることはありませんでした。しかし、本学では教授総会や各種委員会に加わって意見を述べたり、方向性を提案でき、主に教育面では実現させていただけたことも多く、やり甲斐を感じながら仕事をさせていただきました。特に、新モデルコア・カリキュラム導入の際には、医療系の先生方と議論を繰り返し、限られた割り当て講義回数の中に、如何に効果的に講義と実習を組み合わせ入れられるかを考え、また、16号館事前実習設備を葛飾に移転させる計画を練ったりと、

制限のある中での作業は、難しくも楽しい仕事でした。これまで、上村先生と伊集院先生に、ご縁をいただき、東京理科大学薬学部と学生のための医療教育に邁進してきたつもりです。野田キャンパスの薬学エリア正門へと続く、美しい桜のアーケードが見られなくなってしまうのは残念ではありますが、一緒に活動してきた先生方と薬学事務課職員や同窓会の方々に深く感謝しますと共に、当研究室を含めた卒業生達が各分野で活躍してくれることを願いつつ、皆様のご多幸と今後のご発展をお祈り申し上げます。これまで、ありがとうございました。



## 新任の挨拶



医薬品機能解析学研究室 上林 敦

2023年4月に准教授として着任いたしました上林 敦（かんばやし あつし）と申します。私は理科大薬学部の卒業生（38期）で、修士課程修了後はアステラス製薬株式会社・製剤研究所で医薬品開発研究を20年間行ってきました。この度、縁がございまして母校に戻り、新しい研究室を主宰することになりました。至極光栄に存じます。

私は会社在籍中にドイツ・フランクフルト大学に留学し、そこで実施した薬剤学・製剤学における数理モデリング研究にて同大学でPh.D. (Dr. phil. nat.) の学位を取得しました。このモデリング研究はその後にアステラス社内で大いに発展させることができ、これまでに多くの医薬品開発・製剤開発に応用してきました。理科大にお

いては、この研究技術をさらに深掘りし、高い研究価値の創造を目指します。また、従来の薬剤学・製剤学のみならず、薬学全般に貢献可能な数理モデリング・データサイエンス研究を目指していく所存です。本年4月から4名の4年生が私の研究室に所属してくれており、学生とともに上林研究室の立ち上げを楽しんでおります。

微力ではございますが、理科大の伝統を継承し、薬学研究の発展ならびに社会で活躍できる後輩学生の育成に邁進する所存です。同窓会の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 新任の挨拶



細胞創薬学研究室 草森 浩輔

2023年4月に細胞創薬学研究室の准教授として着任いたしました、草森浩輔と申します。私は北海道出身（帯広柏葉高等学校卒）で、京都薬科大学を卒業後、同大学大学院で修士課程を修了いたしました。博士課程は京都大学大学院に進学し、学位を取得いたしました。その後、京都薬科大学助教またはポストドクターとして4年間勤務し、2017年4月に西川元也教授が主宰される生物薬剤学研究室の嘱託助教として本学に着任いたしました。2022年には同研究室嘱託講師に昇進し、2023年から現職に就いております。博士課程在籍時から継続して、生きた細胞を患者に移植することで疾患を治療する細胞治療

の開発研究に従事しております。細胞医薬は、創薬における新しいモダリティとして知られておりますが、臨床応用においては解決しなければならない課題が多く存在します。私は薬学部において培った知識や技術を基に、薬剤学や薬物動態学を基盤とする有効かつ安全な細胞医薬の開発を目指しております。今後、東京理科大学発の細胞医薬を開発することで社会や医療の発展に貢献できるよう日々精進しております。また、研究および教育を通じて本学の更なる発展に貢献したいと考えております。同窓会の皆様におかれましては、何卒ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。



## 近況報告



永田 将司 (34期)

薬学部製薬学科平成9年卒の永田将司と申します。このたび薬学部同窓会誌「ふなかわら」にて近況報告をする機会を与您にいただき、大変ありがたく、また嬉しく思っております。

## ① これまでの歩み

高校時代は有機化学が好きで、将来は創薬の道に進もうと思ひ薬学部に入部しました。が、学部時代の講義で今後薬剤師という職業が発展していきそうだと感じ、またせっかく免許を取るのだから将来どういう道に進むにせよ一度は薬剤師を経験しておきたい、という思ひから大学院博士課程修了後、東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部に入りました。その後、九州保健福祉大学薬学部講師（宮崎大学医学部附属病院薬剤部に派遣）、宮崎大学医学部附属病院薬剤部薬物動態学解析室長を経て、2011年に東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部に准教授として戻ってまいりました。そして、2023年4月より東京医科歯科大学病院 薬剤部長・病院教授・病院長補佐に就任し、現在に至っております。これまでの経歴をみていただければわかるように、大学院修了後一貫して大学病院にて臨床・教育・研究を行ってまいりました。

## ② 薬剤部長として

薬剤部長着任後、部の運営を行うにあたりまず考えたことは「日本一の薬剤部を目指そう！」ということです。では、何の日本一を目指すのか。かなり悩みましたが、インターネットの記事で「働きがい=働きやすさ+やりがい」というキーワードを見つけ、「これだ!」と感じました。そして、「働きがい日本一」を目指すことを薬剤部員に宣言いたしました。部員一人一人が「やりがい」をもち、かつ「働きやすい」環境を整備することにより、薬剤部が最大限のパフォーマンスを発揮することができると思っております。

また、私はこれまで「よく働き、よく遊び、よく休め」を自分の基本方針としておりました。心身が充実して初めて大きな仕事ができるとの思ひからです。当院の薬剤部員も同じような気持ちで働いてもらいたいと思っておりますし、このことが最終的に「働きがい日本一」にもつながると考えています。

薬剤部長は大変責任が重い仕事ではありますが、その分とてもやりがいがあります。副薬剤部長時代は、自分の思い通りにいかないことも多くストレスを感じていたのですが、部長となった今は自分の考えをすぐに実行することができるため、とても楽しく仕事をしています。現在入院患者に対しては、ほぼ全症例薬剤師が介入する環境を整えることができました。今後はまだ十分介入できていない外来患者へのかかわりや、薬局との連携に

力を注いでいきたいと考えています。

## ③ 研究者として

私の専門は「薬物動態学」ですが、学部時代にこの科目に興味があったからではありません。大学院修士課程の時に、外研で東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部に行き、そこで当時の薬剤部長・教授の安原真人先生に出会ったことがきっかけです。安原先生が「薬物動態学」を専門とされていたため、おのずと私もその分野に足を踏み入れることになりました。きっかけはそんな感じなのですが、勉強していくにつれ「これこそが薬剤師にしかできない研究分野だ」と思うようになり、のめりこむことになりました。もともと高校時代から数学は得意だったため、数式を使って理論的な計算ができる「薬物動態学」が私に親和性があったことも影響していると思います。

薬物治療が難しいのは、同じ投与量でも効果や副作用発現に個人差があるからです。この個人差の原因の一つが薬物動態の個人差であるため、この個人差が起きる原因を探る研究などをしばらくは進めていました。そのうち、単に血中濃度を予測するだけでなく、薬効の予測もできないと意味がないのではないかと考えから、PK-PDモデリングなどの手法を用いて、薬効の時間推移を予測する研究も取り入れ始めました。

ここ最近ではAIブームにのり、「AIを使って薬の効果や副作用の予測ができないか？」というテーマの研究を始めました。AIは博士課程の学生と一緒に一から勉強しましたが、学生の方が圧倒的に呑み込みが早く、もともとプログラミングなど一切やったことが無かった学生が、今ではすらすらとコードを書いているのに驚いています。まだ十分な成果が出ているわけではないのですが、新しいことへのチャレンジはとてもやりがいがあります。最終的には、様々な手法をつかって薬効および副作用を予測し、患者個別の投与設計につなげていきたいと考えております。

## ④ さいごに

これからの薬剤師にとって明るい道筋を作っていくのが、私の使命だと思っております。まだまだ道半ばではありますが、これまで多くの友人・同僚に支えられてまいりました。特に薬剤師・アカデミアの分野に、本学薬学部の同期・友人として鈴木貴明（現：山梨大学医学部附属病院 薬剤部長・特任教授）、真野泰成（現：本学薬学部 教授）の二人がいたことは私にとってとても心強く、お互い切磋琢磨しながらやってきました。今後も人との縁を大事に、夢へ向けて努力してまいります。

## 近況報告



磯道 恵 (37期)

Difficulties make you a jewel 全ては患者さんのために

皆さん、こんにちは。私は2000年薬学部製薬学科卒、広島県呉市出身、現在アステラス製薬株式会社の営業本部マネジメント職として仕事をしています。以前にも同窓会誌に「営業の醍醐味とは」と題し記事を投稿したことを懐かしく思います。

山之内製薬株式会社に入社後、川崎南部医療圏の開業医、川崎北部医療圏の大学病院、基幹病院をMRとして担当後、北海道函館市を中心とした道南医療圏のチームリーダー、横浜市西部医療圏の所長、そして現在は千葉県、茨城県の固形がん領域のグループマネージャーとして、がん領域専門MRの仲間とともに「患者さんの未来と希望を創る」を合言葉に日々活動しています。生活場所を辿ると私の人生は港町コース、特に北海道での壮大な仕事の経験を通じて私の人生における価値観に大きな変化がありました。旅するように仕事をする（常に好奇心、探究心を持ち考えながら動く）、人とのご縁を大切に、出会った人は皆師匠、誰もがキラリと輝く個性と強みを持ち合わせておられます。何事にも誠実さ、ひたむきさを忘れず、環境変化を見据え顧客志向で日々仲間と課題に向き合い解決に向けて共に考動しています。

コロナ禍前後での環境変化に伴い私達の働き方も大きく変化しました。特にデジタルツールの進展、リモートによる環境が整備され、顧客を起点とした患者さんファーストの考え方で働く時間と場所を選ぶことができ、多様な社会的環境の社員が更に活躍できる環境にもなりました。共通のビジョン、目的、価値観を持ち合わせた仲間が世界中にいる環境下での相互啓発、離れていても一体感を感じながら仕事ができる環境です。既存の枠組みを超えた自由闊達なコミュニケーションによるイノベティブな発想およびクリエイティブな時間の創出、想像力を高めることによる私たち全員の夢の実現、成長を実感できる組織、そのために日々の研鑽、努力を惜しまず失敗を恐れずチャレンジできる組織風土を仲間と創り上げています。

患者さんご家族、地域医療・日本の医療の発展のために、私達は医薬品を通じてより優れた価値をより早く生み出すために、医療現場のニーズに対し迅速かつ適正に対応することに尽力し、患者さんの声、顧客からのフィードバックを活かし価値共創できることへのやり甲斐と喜びを感じています。Difficulties make you a jewel. (困難によって人は宝石のように輝く)は私の好きな言

葉であり、「患者さんのためになるか」が私の原動力です。

最高のパフォーマンスはリラックスと集中により生まれるともいいます。特に週末は最高のリラックスタイムであり、朝からエクササイズと瞑想、ハーブの演奏、秘湯めぐり、余暇があれば秘境の地を中心に世界中を旅しています。人の手が入っていないありのままの大自然に癒されるとともに、今は文明文化の起点となる場所を訪れ、その時代と歴史に思いをはせ想像することで新たな発見、発想が生まれることに感動と喜びを感じ、近年ではシルクロードを辿る旅としてチベット、ジョージア、今年はカザフスタンを冒険しました。現在40代後半を謳歌、青春とは心の様相をいう、人は理想を失う時に初めて老いるとか。これからも自分らしく、しなやかに、研鑽を惜しまず自ら変化・創造・貢献できることを楽しみにしています。

最後に、最近のプライベートの転換期として、22年7月に最愛の母との別れがありました。19年12月に膵臓がんステージ4であることがわかり、医師から余命半年と言われ家族で涙したところからスタートし、当時広島にいた母父を東京へ、弟家族とともに母のがん治療に家族で共に挑み寄り添った約2年半、最期まで生きたいという思い、新たな治療はないか希望を持ち続け、受け身ではなく自ら学び情報を収集し、全国のセカンドオピニオンの先生方からも意見を求め、多くの医療関係者、患者さんとそのご家族の方々からお話を伺い参考にしながら、「母がどうしたいか」を大切にしながら共に意思決定してきました。最後は痛みに苦しみながらも笑顔で「故郷の風になる（いつもあなたのそばにいるよ）」と言って家族に見守られながら両手を広げ羽ばたかれました。家族と共に過ごすことができた時間と母の深い愛に感謝しかありません。昔から「宝物は何？」と聞かれれば迷いなく「家族」、尊敬する人は「両親」、実は身近にもロールモデルがいたことに気がつきました。高校生の時以来約25年ぶりに両親と生活することで、若い頃とは違った視点での新たな気づきと学び、そして幸せの概念（感謝の念）、価値観（自分の人生にとって何が大切か）が大きく変化しました。仕事と介護の生活の中で学び得た知恵、経験を糧に、今後も母の思い、残してくれたものを引き継ぎ私流にアレンジし、父そして病に苦しむ人々を支え、心身ともに健やかに助け合いながら前向きに生きることができる社会、環境創りに微力ながら貢献したいと思います。

# 研究室紹介

## 有機化学研究室



和田 猛 (1986理学部1部応用化学科卒)

### はじめに

本学薬学部へ赴任して今年で10年になります。私はアカデミアのキャリアの中で理学部、工学部、薬学部と文化の異なる学部を渡り歩いてきました。現在、核酸医薬の開発を中心に研究をおこなっていますが、薬学部に来てから実に多くのことを学び、それが現在の創薬研究に大いに活かされています。薬学部の同僚の先生方や、ともに学び研究をおこなった学生さんたちに大変感謝しています。

私は、本学理学部1部応用化学科に1982年に入学し、卒業研究ではペプチド合成の権威である植木正彬先生の研究室に配属されましたが、外研生として東京工業大学大学院総合理工学研究科生命科学専攻の畑辻明先生の研究室で核酸化学の研究を始めました。その後、東工大の大学院に進学し、1991年に博士号を取得後、東京工業大学生命理工学部の関根光雄先生の研究室で助手になり、さらに核酸化学の研究を続けました。1999年に東京大学工学部化学生命工学科の西郷和彦先生の研究室で助教授となり、新しい分野にもチャレンジしようと核酸化学に加えて糖化学、ペプチド化学の新テーマを立ち上げました。2001年に研究室が本郷キャンパスから柏キャンパスへ移転したころから核酸医薬の研究が本格的に始まりました。そして、2013年に本学薬学部へ教授として赴任してから現在に至るまで、核酸、糖、ペプチドなどの生体分子がもつ特有の高次構造や分子認識能を活かしつつ、それらの構造や性質を改変した人工生体分子を自在に設計・合成し、医薬や新しい機能性分子を創製する研究を続けています。本稿ではその中から核酸医薬に関連する研究について紹介します。

### リン原子修飾核酸医薬の立体選択的合成

私たちの研究室では、タンパク質の設計図であるDNAやそれを鋳型にして合成されるmRNAと選択的に相互作用し、病気に関わる遺伝子の発現を効果的に制御できる、核酸分子を基本骨格とする核酸医薬(図1)を

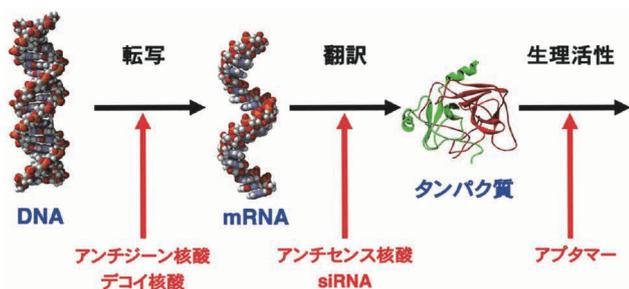


図1 生体内で働く様々な核酸医薬

有機合成化学の手法を駆使して創製する研究をおこなっています。

現在市販されている医薬品の多くは、体の中にある特定のタンパク質と結合することにより薬としての効果を発揮しますが、私たちが開発している核酸分子からなる新しい医薬(核酸医薬)は、病気の原因となるタンパク質に直接作用するのではなく、タンパク質の設計図にあたるDNAやmRNAに結合することによって、病気の原因となるタンパク質そのものの合成を制御します。核酸は、相補的な塩基配列をもつ鎖同士が塩基対を形成することにより、二本鎖を形成します。この性質を利用して、mRNAの一部に結合する人工核酸を設計し、二本鎖を形成させることによって病気の原因となるタンパク質の合成を制御するのです。しかし、天然の核酸分子は、生体内でヌクレアーゼと呼ばれる核酸分解酵素によって速やかに分解されてしまうため、安定化するための工夫が必須となります。そこで、核酸のリン酸エステル部位に化学修飾を施すと、核酸分解酵素はもはやその部分を認識することができず、加水分解から守ることができます。ここで問題となるのは、核酸のリン酸エステルの糖と結合していない酸素原子を有機化学的に他の原子や置換基に変換すると、リン原子が不斉原子となり、2種類の立体異性体が生じてしまうことです(図2)。

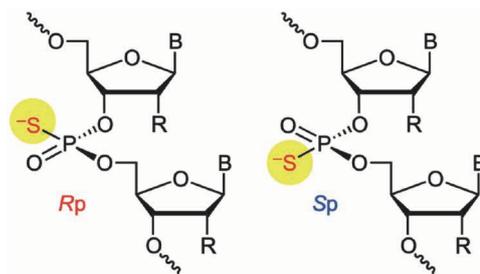


図2 リン原子修飾核酸の立体異性体

たとえば、核酸医薬(30量体)のリン酸エステル部位(29ヶ所)に硫黄原子が導入されている場合、各リン原子につき、2種類の立体異性体が存在しますから、 $2^{29} = 524,288$ 種類の立体異性体が存在することになり、50万種類以上の立体異性体の混合物が人体に投与されているのが現状です。近年、核酸医薬のリン原子の立体化学が生体内における安定性や体内動態、薬効、副作用に大きな影響を及ぼすことが明らかになりつつあり、立体化学的に純粋な核酸医薬分子の合成が求められています。私たちの研究室では、世界に先駆けてリン原子の立体化学を制御したリン原子修飾核酸医薬の合成手法を確立し、そ

の基盤技術を基にベンチャー企業のWave Life Sciences社（以下Wave社）を設立しました。Wave社は、2015年に米国NASDAQに上場し、ボストンを拠点に核酸医薬の臨床開発研究を推進しています。2018年にはWave社の寄付講座（核酸創薬化学講座）が本学薬学部に内に設置され、産学連携の共同研究が実施されています。

### 核酸医薬の安定化とDDSに有効なカチオン性人工生体分子の合成

上記の研究では、核酸医薬を安定化するためにリン原子に化学修飾をおこないましたが、不斉合成という、高度な合成技術が要求されます。私たちの研究室では、これとは全く異なるアプローチで核酸医薬の安定性、有効性、安全性を向上させるための研究もおこなっています。

二本鎖RNAからなるsiRNAという核酸医薬があります。siRNAは、mRNAに作用してタンパク質の合成を阻害する薬です。私たちは、siRNAに対して強く結合し、ヌクレアーゼによる分解から守る働きをするカチオン性人工オリゴ糖（ODAGal）とカチオン性人工ペプチド（Dab）の開発をおこなっています（図3）。

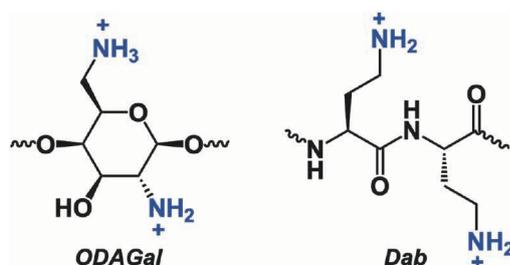


図3 siRNAの安定化とDDSに有効なカチオン性人工分子

これらの分子は、生理的条件下でアミノ基がプロトン化されてカチオンとなり、分子の幅が二本鎖RNAの主溝の両側にあるリン酸アニオン間の距離に適合するため、強く結合します。これらの分子が二本鎖RNAに結合すると、その構造が安定化され、熱をかけても二本鎖が解離しにくくなることを発見しました。これらの分子は、RNA二本鎖を熱的に安定化するだけでなく、生物学的にも安定化します。化学修飾を施していない天然型のリン酸結合をもつsiRNAは、RNA分解酵素によって速やかに分解されてしまいますが、これらの分子を3当量以上添加すると、RNAの分解を効果的に抑制できることがわかりました。また、これらの分子はsiRNAの核酸医薬としての活性には影響を及ぼさないことも確認しています。

応用研究として、膵がんを標的としたsiRNA医薬の開発をおこなっています。膵がん細胞の表面に葉酸受容体が過剰発現していることに着目し、膵がんの浸潤と転移を抑制する効果のあるsiRNAと、葉酸を結合したカチオン性人工ペプチド8量体（Fol-Dab8）の複合体を形成させ、siRNAの膵がん細胞選択的なデリバリーに挑戦しました。ヒト膵がん細胞を移植したマウスにsiRNAとFol-Dab8の複合体を尾静脈投与したところ、膵がん組織にきわめて効率的に集積させることに成功しました。膵が

んの増殖抑制効果も高く、進行した膵がん患者に対する標準療法である抗がん剤を投与した場合と比較しても、はるかに高い治療効果が確認されました。現在、この技術の実用化を目指し、新たなベンチャー企業の設立が計画されています。

### 革新的次世代核酸医薬の開発（INGOTプロジェクト）

核酸医薬は、従来の医薬では治療できなかった希少疾患や難治性疾患に対しても有効であることから、低分子医薬、抗体医薬に続く新しい医薬のモダリティとして近年世界的に開発が加速しています。核酸医薬は、作用機序が明確で副作用も少ないという特徴がありますが、生体内での安定性向上やデリバリー技術の確立、高騰する生産コストの削減など解決すべき課題も多く残されています。このような状況の中、令和3年度にスタートした国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が推進する「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業（RNA標的創薬技術開発）」の研究課題の一つである「革新的次世代核酸医薬（英語名：Innovative Next Generation of Oligonucleotide Therapeutics、略称：INGOT）」は、筆者を総代表研究者として、5大学と7つの関連企業を含めた全12機関による産学連携コンソーシアムを形成し、革新的次世代核酸医薬の産業化を目指しています（図4）。

INGOTプロジェクトでは、各機関の研究者が共同で研究が行える環境を整備するために、東京理科大学野田キャンパス内の研究推進機構・総合研究院に“開かれた先進的な研究環境（Opened Advanced Laboratory）”を目指した集中研を設置しました。集中研にはそれぞれの研究課題を、それぞれの専門分野のエキスパートである研究者が、最先端機器や実験環境を共有することで、効率的な研究活動を行い、早期の研究結果及び事業の実現を目指しています。

INGOTプロジェクトは、従来の核酸医薬よりも高い生体内安定性と有効性を示し、かつ副作用が低減された新規構造を有する革新的次世代核酸医薬の製造・精製・分析技術を総合的に開発することを目的としています。本研究が達成されれば、欧米との競争が激しい核酸医薬開発において、我が国独自の核酸医薬開発につながることで大いに期待されます。

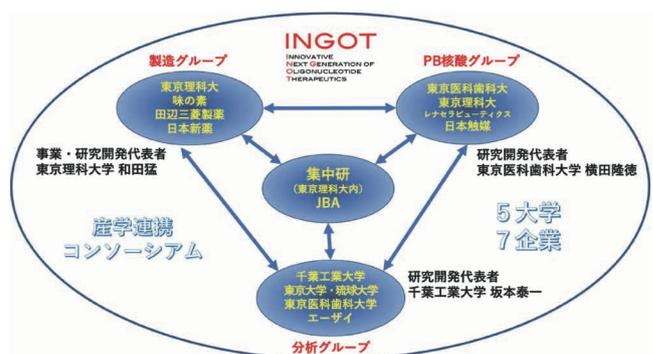


図4 INGOTプロジェクトの組織図

# 恩師からのたより

## 「あいつ今、元気かな？」



海保 房夫 (2014(平成26)年3月 退職)

### はじめに

理科大学薬学部と同窓会誌「ふなかわら」の「恩師からのたより」の欄に、旧教職員の一人として、何か寄稿して欲しいと、同窓会会長の上村さんから私に連絡がありました。私は、即座に、お断りの連絡をしました。私、海保が「恩師」だなんておこがましい限りだからです。他の、もっと、恩師として相応しい旧教職員の方々に依頼して下さいとお断りした次第です。しかし、その後、執筆に協力してくれる方がいないので、海保に再度上村さんから依頼がありました。

現役の時に大変お世話になった上村先生からの依頼を断ることはできません。「仕方がなく」と言う表現は当てはまりませんが、頑張っって書くことにしました。

さて、話しは、とっくに定年になった、A君とB君の飲み屋での会話から始まります。

海保は、用事があり遅刻してくるとのこと。

### (1) 柴犬と町内会

- A：よー！！！！元気？  
B：俺は元気だよ、お前こそ元気か？  
A：元気だよ。ボケがひどくて、女房と子供によく怒られているよ。  
B：俺もそうさ。  
A：ところで、今日の飲み会に海保は遅刻してくるとのことだけど、あいつは今、元気なのかな？  
今、何してるんだ？  
B：先輩から聞いたんだけど、海保は、元気にしているらしいよ。  
なにも仕事はしていないらしく、毎日犬の世話をしているらしいんだ。  
A：犬？  
B：先輩の話だと、柴犬を定年の1年前から飼い始めたらしく、毎日、朝、昼、夕、寝る前の1日4回散歩しているらしいよ。  
1日、8千歩～1万歩くらい、大雨の日以外、ほぼ毎日歩いてるとも聞いたんだ。  
A：ふーん。犬と散歩していれば、健康にも良いし、ボケ防止にも良いしで、一石二鳥だ。  
犬の世話があるんで、今日の飲み会を遅刻するんだとさ（あきれ顔）。  
犬の方が我々よりも大切なのかな？（笑）  
B：海保の犬に対する気持ちは、犬を飼うとよくわかるよ。  
俺も、犬を飼っているから、海保の気持ちは、よく

わかるんだ。

海保のところの犬は、飼い始めた頃の体重が、5～6kg位だったのが、11年も経つと、今では体重が16kgになってしまったそうだ。

獣医師からは、痩せるようにと言われているらしいよ。

痩せろなんて、無理な話した。（笑）。

- A：10キロも増えた・・・・・・・・・・。  
飼い主の体形にそっくりだ（大笑い）！！！！  
B：犬がいなかったら、定年後、引き籠もりになっていたかもしれないと海保本人が言っていたそうだ。  
A：犬、さま、さまだな。  
B：さらに1つ言い忘れたことが。  
それは、町内会の活動として、防犯パトロールに海保が参加しているらしいよ。  
A：あの海保が、町内会の活動に。  
驚きだな。  
あんなにいい加減だった海保が-----。

### (2) 学校薬剤師

- B：海保は定年後何をしたのか、先輩に聞いたんだ。  
そうしたら、一時期、学校薬剤師に関わっていたらしいよ。  
A：ところで、学校薬剤師て？なにそれ?????  
B：学校薬剤師を知らないの？  
大学以外の学校には、学校医、学校歯科医がいるだろう。  
学校薬剤師も居なければいけないんだ。  
A：お医者さんと歯医者さんは、毎年、検診が学校の中であった記憶があるけど、薬剤師が何かをしているのをみたことがないね。  
B：俺も、詳しくは、知らないけど、学校保健安全法という法律に学校薬剤師の設置が定められていて、水質検査などのような、学校環境衛生活動がメインとのことだよ。  
詳細は、俺もしらない。  
A：そっかー。  
B：時代が変化すると、薬剤師の仕事も色々なところで、見直されているのかな。  
海保も、学校薬剤師の現場を経験して、薬剤師のあるべき姿を見直したのかもしれない。  
A：薬剤師が、我々の若いときは全然違ってきていることを改めて知ったよ。  
B：話しは変わるけど、理科大学薬学部は、薬剤師教育に、昔から力を入れていなかったし、さらに国家試

験対策もいい加減だったと思うけど、今もそうかな？

今は、そんないい加減な教育はしていないと思うよ。国家試験合格率もそれなりに良いと聞いているよ。

A：そうだよな、その昔、薬理学の単位を取らないで薬学部を卒業し、国試に合格した卒業生がいたことを思い出したよ。だいたい、薬学部で、薬理学が必須科目でなく、選択科目だったのも驚きだよ。信じられないよな。

B：そんな時代もあったな。

### (3) 昔ばなし

海保がやっと到着し、AとBに合流することができた。

海保：遅くなりごめん。

B：今まで、海保のことを噂してたんだけど。

くしゃみ出なかった？

海保：くしゃみは出なかったよ。

久しぶりだね。

最後に会ったのが、三年前だ。

AもBも元気かな？

コロナは大丈夫だった？

A、B：お陰様で、大丈夫だった。

俺たちは元気だよ。

AとBはビールを、海保はカシスオレンジを飲みながら話しが盛り上がる。

B：ところで、神楽坂にいたとき、どこでめしを食べていたか覚えてる？

A：俺は、学食だったり、神楽坂の入り口の「翁庵」でカツ丼ライスを食べたことを良く覚えているよ。「翁庵」の奥にあった中華料理の「白秋」も、よく行った記憶があるんだ。

「翁庵」は今でも営業しているけど、「白秋」は無くなったらしいよ。

海保：「翁庵」や「白秋」以外で、印象に残っているお店ある？

「五十番」、「志満金」、「鳥茶屋」、「志な乃」、「田原屋」、「軽い心」、「ハッピージャック」、「不二家」。

A：この中で、今でも残っているお店は、「翁庵」、「志満金」、「鳥茶屋」、「志な乃」、ペコちゃん焼きの「不二家」くらいかな。

海保：そうそう、忘れてはいけないお店に「紀の善」があった。

1年生のとき、実習が終わったあと、同級生の女性達と一緒に、「紀の善」に行ったよ。

女性だったら甘いものが好きだろうから、「紀の善」なら、誘えば来てくれるかな？なんて、思いながら、下心みえみえで誘ったんだ。

そうしたら来てくれたんだよ。

一人ではなかったな。

そのときの、女性達が誰だったか、思い出せないんだ。

50年以上前の話だもんな。

そう言えば、「紀の善」は、今年の9月に閉店したらしいよ。

B：えーーーーー。

閉店！！！！！！

A：残念だけど、仕方がない。

後継者の問題かな？

「紀の善」の抹茶ババロアは美味しかった。

海保：抹茶ババロアを作っていた職人さん元気かな？

その方は、以前、喫茶店の「パウワウ」に勤めていたんだよ。

神楽坂に居るときは、仲良くさせてもらったんだ。

A：そうか

B：ところでさ、俺たち、あと何年生きるかな？

子供や他人様の迷惑にならないで、歳を取り、元気にしていられると良いんだけどな。

海保：同感だよ。

元気が一番！！！！

また元気な姿で再会しようぜ。

今日は、遅れてきて本当にすみませんでした。

またの再会を楽しみにしているよ。

ではまた。

という会話でした。

### おわりに

私は、定年後、今年で丁度10年となります。10年という節目の年に上村さんから執筆の依頼があったのも何かのご縁かもしれませんが、私は、以前に比べて身体も弱り、いつ「鬼籍」に入るかもしれない歳となりました。そこで「冥土の土産」に、なにか記憶に残っていたことを書き留めておくのも良いかなと依頼をお受けした次第です。

どうせ、誰も、半分呆けたジジイの書いた駄文を読む人はいないと思いましたが、飼い犬の写真を載せさせて頂きました。

I am looking forward to seeing you again.



飼い始めの頃・1才になる前



5才くらいの頃・  
体重7kg



最近の写真・体重16kg

東京理科大学薬学部 医療薬学教育研究支援センター  
生涯学習プログラム 2023年度後期講座のご案内

オンライン (Zoom) 配信により開催  
講座実施後、アーカイブ配信の予定あり (一部講座を除く)

東京理科大学薬学部 医療薬学教育研究支援センター (SCCPEP) は、本学薬学部と各医療機関、製薬企業および医療行政などを繋ぎ、充実した臨床薬学教育および臨床研究を支援するために設けられた薬学部の附属機関です。薬剤師をはじめ薬学関連の社会人のスキルアップと研究活動を支援し、これら薬学の産官学連携を通じて、学部での実践的薬学教育の充実に繋がります。

また、本学の社会人大学院を活用して医療および製薬の現場で働きながら研究し、学位取得を目指す方の活動を支援します。どうぞご相談ください。

### 薬学ベーシックコース

日々進歩する薬物治療に関する知識のアップデートだけでなく、エキスパート養成、臨床研究の実施に役立つ講座を通じて薬剤師のスキルアップを目指します。

薬物治療アプトゥデート講座	日程及び受講料
「核酸医薬の基礎—核酸の構造と性質—」 和田猛 (東京理科大・薬)	10/5(木) 3,000円
「食品中に含まれる重金属の健康影響」 藤江智也 (東京理科大・薬)	11/25(土) 3,000円
「骨粗鬆症治療薬の作用機序アップデート」 早田匡芳 (東京理科大・薬)	
「婦人科領域で用いられる漢方薬」 — スポンサー講座(ツムラ株式会社) — 座長・進行: 磯濱洋一郎 (東京理科大・薬・教授) 講師: 未定	11月下旬/ 開催予定  ※本講座は 受講料無料
「くすりとは毒は紙一重—薬用植物成分の利用と中毒例について」安元加奈未 (東京理科大・薬)	12/9(土) 3,000円
「暮らしにも役立つ有機化学」高橋秀依 (東京理科大・薬)	
「うつ病の病態仮説と治療」 「うつ病の栄養学的治療」 功刀浩 (帝京大学医学部 教授)	2024年 1/20(土) 3,000円
「新しい創薬モダリティとしてのメッセンジャーRNA (仮)」 位高啓史 (東京医科歯科大学・教授)	2/3(土) 3,000円

基礎薬学スキルアップ講座	受講料: 各回 3,000円	日程
「文献検索の仕方」嶋田修治 (東京理科大・薬)		10/7(土)
「学会発表の仕方・論文の書き方」嶋田修治 (東京理科大・薬)		10/21(土)

### リスクマネジメントコース

医薬品・食品のリスクコミュニケーションを実施するための知識や技術の習得を目指します。

食品安全講座	受講料: 7,500円 (全3回分)	日程
「表示全般のお話とアレルギー表示」 森田満樹 (一般社団法人フーコム)		12/2(土)
「栄養成分表示について」 米倉れい子 (株式会社食 STORY 代表)		12/9 (土)
「添加物不使用表示と企業の取組について」 森田満樹 (一般社団法人フーコム) 宇都佳裕 (日本ハム品質保証部)		12/16 (土)

### レギュラトリーサイエンスコース

薬学関連のレギュラトリーサイエンス (開発・評価・PV など) の知識や考え方を体系的に修得することを目指します。

医薬品品質・GMP 講座 (全2回)	受講料: 各 4,000円	日程
医薬品開発等講座 (全3回)	受講料: 各 4,000円	調整中
日程が決定次第、随時更新いたしますので、ホームページも併せてご確認ください。		

### 薬学エキスパートコース

臨床研究の実施に役立つ講座を通じ、薬剤師としてのスキルアップを目指します。

わかりやすい臨床講座 (全3回)	受講料: 各回 3,000円	日程
「統計解析実践演習 2~線形回帰とロジスティック回帰~」 山本紘司 (横浜市立大学医学部臨床統計学准教授)		10/28(土)
「統計解析実践演習 3~生存時間解析~」 山本紘司 (横浜市立大学医学部臨床統計学准教授)		11/18(土)
「統計解析実践演習 4~予測解析 (ROC 解析など) ~」 山本紘司 (横浜市立大学医学部臨床統計学准教授)		1/27(土)

### 医療データサイエンスコース

データサイエンス (情報科学) 手法を理解し、医療データサイエンスの理論的基礎の習得を目指します。

医薬品開発等講座	受講料: 各回 3,000円	日程
「医療データサイエンスの概論」 講師: 宮崎智 (東京理科大学 教授)		9/15 (金)
「創薬における数理モデリング研究の現状」 講師: 上林敦 (東京理科大学 准教授)		9/22 (金)
「数理モデリングによる医薬品吸収研究の現状 1」 講師: 上林敦 (東京理科大学 准教授)		9/29 (金)
「数理モデリングによる医薬品吸収研究の現状 2」 講師: 上林敦 (東京理科大学 准教授)		10/6 (金)
「医療データへの情報論的手法の適用」 講師: 佐藤圭子 (東京理科大学 准教授)		10/13 (金)
「がん研究における公共データベースの利活用と情報論の応用」 講師: 秋本和憲 (東京理科大学 教授)		10/20 (金)
「がん研究における数理モデル解析」 講師: 波江野洋 (東京理科大学 准教授)		10/27 (金)
「がん臨床試験の概論」 講師: 安藤宗司 (東京理科大学 講師)		11/3 (金)
「医学研究における交絡とその調整」 講師: 寒水孝司 (東京理科大学 教授)		11/10 (金)
「論理型人工知能入門」 講師: 滝本宗宏 (東京理科大学 教授)		11/17 (金)
12/1・12/8・12/15・12/22・1/19の詳細は、ホームページ掲載のチラシにてご確認ください。		

【ご注意ください】オンライン (Zoom) 配信により開催しますが、状況によっては配信方法の変更、講座の中止・延期の場合があります。HPで最新情報をご確認ください。

【申込方法】医療薬学教育研究支援センターHPの申込フォームよりお申込み下さい。自動返信メールで受講料のお支払方法などをご案内します。各講座の開催準備が整い次第、順次受付開始いたします。



各セミナーの詳細情報・お申込みはこちら  
東京理科大学薬学部 医療薬学教育研究支援センター  
<https://www.tus.ac.jp/sccper/>

## 薬学部同窓会は同窓生の真心と会費で運営されています

薬学部同窓生の皆様、日頃より同窓会活動にご協力戴きありがとうございます。

また、引き続き会費納入をいただき本当にありがとうございました。同窓会幹事一同心からお礼申し上げます。今年度も2023年度会費納入をお願いいたします。

そして、本年度から新たな同窓生となりました2023年3月卒業生60期、大学院修了の皆様、ならびにご父兄

の皆様からも本同窓会活動に賛同を得ることができましたことを本当にうれしく思っております。東京理科大学薬学部同窓会は、薬学部同窓生の強い絆のもと独自の同窓会として同窓生の真心と会費により運営されております。

なお、ご寄付も受け付けておりますので、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

## 2023年度会費納入手続きについて

### ◆あなたの会費納入状況

ふなかわら送付時の封筒の宛名の下部に記載あり  
(ご確認ください)

#### 終身会員・∞

終身にわたり会費を納入済みの正会員の方：入会後の段階でも納入可能です。一度の納入で終身会員となり、次年度からの納入は不要となります。納入年度にかかわらず、ふなかわらにお名前を記載させていただきます。

#### 20××年3月まで済み

20××年3月まで会費納入済みの正会員の方：会費納入年度のふなかわらにてお名前を記載させていただきます。

#### 2023年度・お願い

2023年度の会費未納の会員の方：会費納入をどうぞよろしくお願い致します。

### ◆会費納入方法

郵便局で同封の振替用紙をご利用いただくか、金融機関窓口、ATM、ネット等から下記の口座にお振り込みください。

ゆうちょ銀行 ○一九店 当座 0178943

リダイヤクガクブ ドウソウカイ

(口座振り込みの場合は、期または卒業年を氏名の前にご記入ください。家族会員やご寄付などが含まれる場合は、振込後にメールまたはFAXで金額種別をお知らせ下さい)

### ◆会費金額

年会費2,000円(何年度分でも納入できます)、終身会費50,000円

☆ただし、家族会員(正会員の一親等親族および配偶者)の年会費・終身会費は1/2

### 令和4年度 会費納入額詳細 (令和5年3月31日現在)

	年会費納入		終身会費納入		寄 付 金		合計金額
	金 額	人 数	金 額	人 数	金 額	件 数	
令和4年度卒業・修了者	0	0	817,000	28	0	0	817,000
既卒者	232,000	36	1,030,000	22	204,718	3	1,466,718
合 計	232,000	36	1,847,000	50	204,718	3	2,283,718

### 薬学部同窓会会員数 (令和5年3月31日現在)

	卒業生数	終身会員	年会費会員
卒 業 生	10,822名	2,399名	961名
大学院修了生	228名	20名	9名
合 計	11,050名	2,419名	970名

### 定例会に参加しませんか!

ZOOMでの参加も可能です。

神楽坂での参加が難しかった地方の同窓生、大歓迎!!  
年に4回開催しています。詳しくはホームページをご覧ください。





野田キャンパス図書館（手前）と講義棟（奥）



雪景色（2023年2月）



野田キャンパス学生寮（現薬学部横に建築中）

### 東京理科大学薬学部同窓会へのお問合せ

#### 【事務所・連絡先】

東京理科大学薬学部 同窓会事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内16号館1F

E-mail : jimmu@ridaiyakudo.gr.jp FAX : 04-7121-4531

E-mail、FAX、または郵送でお願いいたします。開局日に順番に対応させていただきます。事務員は常駐しておりませんので、お電話でのお問合せはお受けすることができません。どうかご了承ください。

#### 【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

行事などに関する最新の情報を掲載しておりますので、是非ご覧ください。また、ホームページのWEB名簿システムを利用して、パソコンから登録情報の変更をすることができます。是非ご利用ください。

### 編集後記

初の編集後記を仰せつかり、編集に関しては聞き手一方の私だが、一つご報告がある。

薬学部同窓会のような学部同窓会は、一匹狼の多い理科大では貴重な存在である。苦勞の末に設立してくださった先輩諸氏に、大いに感謝したい。お蔭様で、今私達は「誰でも参加出来る定例会」やこの「ふなかわら」で繋がる事が出来る。

そんな私達の回りでは、コロナ・熱中症警戒アラート・線状降水帯、地球上では戦争さえ起きている。「生きにくい時代」となった。このような時代の中で、私達が学んだ薬学とは薬と言うツール無しでは働かないのであろうか？長く病院・薬局勤務・薬剤師会活動をしてきた私は、家族・友人・地域の人からよく質問を受ける。「放射線って何が怖い？近海の魚を食べて大丈夫？」「医者に〇〇すると言われるが、実際何をすればいいの？」「歌舞伎役者が薬を使って変な事をやったが、施設にある大量の薬を安全に管理するには？」実践の質問は多岐に渡る。今こそ、薬・人体・公衆衛生・放射線と広く実践学を学び磨いてきた私達一人一人が、回りの人々に・地球上の生き物に「生き易さ」を提供する事が出来ると実感する。

薬学に出会えた事に感謝。多岐に渡る知識を持つ同窓生同士が繋がる事に感謝。そして、今生きて活動出来る事に感謝。

「熟田津に船乗りせむと月待てば潮もかなひぬ今は漕ぎ出でな」（額田王）

16期 武田直子

### 令和5（2023）年度同窓会幹事一覧

小原 侃 (1)	岡宮 智子 (11)	関口 真紀子 (16)	飯野 直子 (21)	金 森 道枝 (24)	水 八寿裕 (30)	井 井 弓子 (43)
黒崎 浩己 (1)	富秋 英志 (11)	田畑 新 (16)	吉田 雅人 (21)	佐藤 修一 (24)	高橋 未明 (31)	松本 瑞德 (31)
山口 堅志郎 (1)	向井 呈一 (11)	武田 直子 (16)	牧田 美保子 (22)	伊原 丈久 (25)	中川 木正 (32)	松尾 圭一 (45)
川手 鮎子 (2)	飯島 康典 (12)	今 和枝 (16)	花岡 信秀 (22)	院 靖明 (25)	渡邊 悦史 (32)	高尾 敬一 (46)
鈴木 政雄 (3)	金澤 幸江 (12)	大谷 佳子 (16)	安藤 秀二 (22)	小 林 蜜 (26)	小島 昌徳 (34)	岡田 隆一 (50)
中村 洋司 (3)	田端 敬一 (12)	渡部 敏行 (16)	磯部 政彦 (22)	関根 靖之 (26)	野村 香織 (34)	山田 悠一 (52)
幡野 千子 (4)	西川 恒男 (12)	青山 隆夫 (17)	小川 政と (22)	若松 正克 (26)	真野 泰成 (34)	亀宮 あさ (52)
山田 高照 (5)	根元 賢一 (13)	押尾 邦之 (18)	柏田 弘之 (22)	小川 順子 (27)	宮田 正一 (35)	高橋 悠一 (52)
湯田 康勝 (5)	小高 文由 (14)	関 裕史 (18)	樽野 幸和 (22)	稲村 久米 (27)	浅井 亮将 (37)	熊谷 春隼 (54)
藤井 幸博 (7)	石井 修 (14)	渡辺 宏二 (18)	高井 和田 (22)	前田 千恵 (27)	上林 香 (38)	野田 庄代 (54)
寺山 博行 (7)	岩崎 典子 (14)	山内 紀子 (19)	中村 直 (22)	秋本 和憲 (28)	遠藤 智香 (39)	田代 裕 (54)
松岡 隆 (8)	畑中 典子 (14)	小川 惠津子 (19)	上村 直樹 (23)	石塚 千尋 (29)	遠藤 有美 (40)	
奥村 成太 (8)	林 譲 (14)	小嶋 知夫 (19)	佐藤 薫 (23)	石 充 (29)	澤井 有里 (40)	
武尾 勝司 (9)	昌子 久仁子 (14)	小嶋 康正 (19)	中村 宏 (23)	大瀧 真造 (29)	柴崎 光太郎 (40)	
黒崎 浩己 (9)	前田 初代 (14)	鈴木 契典 (19)	森 深雪 (23)	神谷 真智 (29)	高橋 智至 (40)	
山崎 敏夫 (9)	菅原 伸太郎 (15)	高梨 健一 (19)	桐井 まゆみ (23)	鈴木 敦子 (29)	高橋 友佳 (43)	
原 啓子 (10)	菅原 章太郎 (15)	永井 健一 (19)	井 裕一 (24)	内村 兼一 (30)	斎藤 友佳 (43)	
石井 啓一 (11)	和田 浩志 (15)	長谷川 俊雄 (19)	秋山 裕一 (24)	菊地 兼一 (30)	杉野 由香里 (43)	
小暮 渉 (11)	遠藤 健治 (16)	小松 俊哉 (20)	五十嵐 澄 (24)			